

社会福祉の原理と政策		担当教員	上原 正希
①福祉を学ぶための基盤となる考え方や基礎知識を学ぶ。 ②福祉サービスを「ソーシャル・サービス」、福祉政策を「ソーシャル・ポリシー（社会政策）」と、福祉を幅広く捉えるようになった背景（要因・理由）と、その内容（考え方・概念）を学ぶ。 ③ソーシャル・ポリシー（社会政策）が元来の福祉政策のみならず、直接福祉を目的としない政策（所得政策、雇用政策、住宅政策、教育政策など）を含む意義と目的を理解することができる。 ④福祉の市場化の意義と目的を理解することができる。 ⑤他国の福祉制度の外観を理解し、我が国のソーシャル・ポリシーの方向性を考えることができる。			
授業の目的・ねらい	①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。 ②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。 ③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。 ④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。 ⑤福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解する。 ⑥福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ⑦福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。	授業全体の内容と概要	①社会福祉の原理 ②社会福祉の歴史 ③社会福祉の思想・哲学、理論 ④社会問題と社会構造 ⑤福祉政策の基本的な視点 ⑥福祉政策におけるニーズと資源 ⑦福祉政策の構成要素と過程 ⑧福祉政策の動向と課題 ⑨福祉政策と関連施策 ⑩福祉サービスの供給と利用過程 ⑪福祉政策の国際比較
具体的授業内容	①社会福祉の原理を学ぶ視点（社会福祉の歴史、思想・哲学、理論、社会福祉の原理と実践、社会福祉学の構造と特徴） ②社会福祉の歴史を学ぶ視点（歴史観、政策史、実践史、発達史、時代区分、日本と欧米の社会福祉の比較史の視点） ③日本の社会福祉の歴史的展開（慈善事業、博愛事業、社会事業、社会福祉事業、社会福祉） ④欧米の社会福祉の歴史的展開（救貧法、慈善事業、博愛事業、社会事業、社会保険、福祉国家、福祉社会、国際的潮流） ⑤社会福祉の思想・哲学（社会福祉の思想・哲学の考え方、人間の尊厳、社会正義、平和主義 等） ⑥社会福祉の理論（社会福祉の理論の基本的な考え方、戦後社会福祉の展開と社会福祉理論、社会福祉の理論（政策論、技術論、固有論、統合論、運動論、経営論）、欧米の社会福祉の理論） ⑦社会福祉の論点（公私関係、効率性と公平性、普遍主義と選別主義、自立と依存、自己選択・自己決定とパターナリズム、参加とエンパワメント、ジェンダー、社会的承認） ⑧社会福祉の対象とニーズ（ニーズと需要の概念、社会福祉の対象とニーズ、ニーズの種類と次元、ニーズの理論とその課題） ⑨現代における社会問題（貧困、孤立、失業、要援護性、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、ニューリスク、依存症、自殺） ⑩社会問題の構造的背景（低成長経済、グローバル化、少子高齢化、人口減少社会、格差、貧困、社会意識・価値観の変化） ⑪福祉政策の概念・理念（現代の社会問題と福祉政策、福祉政策の概念・理念、福祉政策と社会保障、社会政策、福祉レジームと福祉政策） ⑫ニーズ（種類と内容、把握方法） ⑬資源（種類と内容、把握方法、開発方法） ⑭福祉政策の構成要素（福祉政策の構成要素とその役割・機能、政府、市場（経済市場、準市場、社会市場）、事業者、国民（利用者を含む）、措置制度、多元化する福祉サービス提供方式） ⑮福祉政策の過程（政策決定、実施、評価、福祉政策の方法・手段、福祉政策の政策評価・行政評価、福祉政策と福祉計画） ⑯福祉政策と包括的支援（社会福祉法、地域包括ケアシステム、地域共生社会、多文化共生、持続可能性（SDGs 等）） ⑰関連政策（保健医療政策、教育政策、住宅政策、労働政策、経済政策） ⑱福祉供給部門（公的部門（政府・地方公共団体）、民間部門（営利・非営利）、ボランティア部門、インフォーマル部門、部門間の調整・連携・協働）		

	⑱福祉供給過程(公私(民)関係、再分配、割当、市場、準市場、福祉行財政、福祉計画、福祉開発) ⑳福祉利用過程(スティグマ、情報の非対称性、受給資格とシティズンシップ) ㉑福祉政策の国際比較(国際比較の視点と方法、福祉政策の類型(欧米、東アジア等))					
テキスト	書籍名		著者	出版社	出版年	ISBN
	新・社会福祉士シリーズ 4 社会福祉の原理と政策 第2版		福祉臨床シリーズ編集委員会編 福田幸夫責任編集・長岩嘉文責任編集	弘文堂	2025 年	9784335612282
レポート課題	レポート課題①	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		現代における社会問題にはどのようなものがあるかなど、簡潔に説明しなさい。				
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。			
		レポート作成のための参考文献	特になし			
	レポート課題②	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。				
		福祉政策と包括的支援について簡潔に説明しなさい。				
		レポート作成上の注意点	教科書を丸写ししないように記載してください。			
		レポート作成のための参考文献	特になし			
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価					
	レポート課題		スクーリング		試験	
	2本		無		有	

権利擁護を支える法制度			担当教員	大島 康雄	
相談援助活動における権利擁護の法的根拠を日本国憲法、民法、行政法との関わりで把握し、権利擁護の意味を上記法制度との関連において理解する。その上で、相談援助業務において必要となる成年後見制度等の仕組みと権利擁護活動の実際を理解するとともに、社会福祉士として必要な権利擁護の視点を養う。					
授業の目的・ねらい	①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解する。 ②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解する。 ③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解する。 ⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解する。	授業全体の内容と概要	①法の基礎 ②ソーシャルワークと法の関わり ③権利擁護の意義と支える仕組み ④権利擁護活動で直面しうる法的諸問題 ⑤権利擁護に関わる組織、団体、専門職 ⑥成年後見制度		
具体的授業内容	①法と規範(法の規範との関係、法と道德の関係) ②法の体系、種類、機能(成文法と不文法、公法と私法、実体法と手続法、法規範の特質と機能) ③法律の基礎知識、法の解釈(法律条文の構造、法解釈の基準と方法) ④裁判制度、判例を学ぶ意義(裁判の種類、判決の種類、判例とは) ⑤憲法(憲法の概要(最高法規性、日本国憲法の基本原理)、基本的人権(基本的人権と公共の福祉、平等性、自由権、社会権)、幸福追求権) ⑥民法(民法総則(権利の主体・客体、権利の変動、無効と取消し)、契約(売買、賃貸借等)、不法行為(不法行為の要件、不法行為の効果(損害賠償))、親族(婚姻、離婚、親権、扶養、成年後見制度)、遺産管理) ⑦行政法(行政組織(国、地方公共団体の組織、公務員)、行政の行為形式(行政処分)、行政上の義務履行確保(行政強制、行政罰)、行政訴訟制度(行政不服申立て、行政訴訟)、国家の責任(国家賠償)、地方自治法(国と自治体の関係)) ⑧権利擁護の意義 ⑨福祉サービスの適切な利用(運営適正化委員会、国民健康保険団体連合会) ⑩苦情解決の仕組み(事業者による苦情解決、自治体等による苦情解決) ⑪虐待防止法の概要(高齢者虐待防止法、児童虐待防止法、障害者虐待防止法) ⑫差別禁止法の概要(障害者差別解消法) ⑬意思決定支援ガイドライン(障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン、人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン、認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン) ⑭インフォームド・コンセント(法的概念としてのインフォームド・コンセント、インフォームド・コンセントに関する判例) ⑮秘密・プライバシー・個人情報(秘密、プライバシー、個人情報、情報共有) ⑯権利擁護活動と社会の安全(守秘義務、通報、警告義務) ⑰権利擁護に関わる組織、団体の役割(家庭裁判所、法務局、市町村、社会福祉協議会、権利擁護支援の地域連携ネットワークの中核機関、弁護士、司法書士) ⑱成年後見の概要(法定後見、任意後見、専門職後見) ⑲後見の概要(成年被後見人の行為能力、成年後見人の役割) ⑳保佐の概要(被保佐人の行為能力、保佐人の役割) ㉑補助の概要(補助人の役割) ㉒任意後見の概要 ㉓成年後見制度の最近の動向(利用動向、成年後見制度利用促進法、成年後見制度利用促進基本計画、意思決定支援) ㉔成年後見制度利用支援事業 ㉕日常生活自立支援事業(日常生活自立支援事業の動向、専門員の役割、生活支援員の役割)				
テキスト	書籍名	著者	出版社	出版年	ISBN
	最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座9 権利擁護を支える法制度 第2版	日本ソーシャルワーク教育学校連盟【編】	中央法規	2025 年	9784824301529

レポート課題	次の課題について 1,000 字～1,200 字の範囲で述べなさい。		
	「アドボカシー」「エンパワメント」について権利擁護の観点から説明しなさい。		
	レポート作成上の注意点	公民権運動やピープルファーストなどの歴史的背景を踏まえて説明すること (テキスト第 3 章「権利擁護の意義と支える仕組み」参照)。	
	レポート作成のための参考文献	特になし	
評価方法	レポート、試験及び課題への取り組み姿勢をもとに総合的に評価		
	レポート課題	スクーリング	試験
	1本	無	有